

メトロポリタン

中国の国内総生産（GDP）が日本を抜いて世界2位になったことを受け、調査機関「幸せ経済社会研究所」（東京・枝広淳子所長）が1月、GDPに関する意識調査を行ったところ、日本や世界のGDPが伸び続けることを「必要だ」と思う人は44.8%と半数を下回った。（鈴木久美子）

3位に転落 GDP

調査はインターネットを利用し、全国の二十〜七十歳の五百人が回答した。日本や世界のGDPが伸び続けることについて、「必要ない」は19.4%、「わからない」は35.8%だった。「必要」と答えた理由は「雇用の安定」「今の生活の維持」「国民の幸せ」など、「必要ない」と答えた理由は「永久に伸び続けるのは不可能」「もっと大切なものがある」と答えた二百二十四人のうち

「伸び続けるべき」半数届かず

2011.2. (2) 東京新聞

都内の研究所がネット調査

「物質的豊かさ追求」に迷いも

ち、「可能」と答えた人は53.1%にとどまり、「不可能」（11.2%）、「わからない」（35.7%）の合計がほぼ半数を占めた。同研究所では、GDPの成長は必要と思っても、地球の資源などに限りがあることを考えて可能かどうか分からないという「経済成長のジレンマ」を感じている人が少なからずいる、と分析している。中国のGDPが世界2位になったことについては、51.6%が「どつどつ」とはな」と答え、「ショックがっかり・くやしい」の41%を上回った。